平成30年度（2018年度）第2回すいたの年輪ネット議事録

１　開催日時

平成30年12月20日（木）午前10時開会～12時閉会

２　開催場所

男女共同参画センター　視聴覚室

３　出席委員

新崎　国広　委員（大阪教育大学教育学部教育協働学科　教授）
古田　利佳　委員（公益社団法人　吹田市シルバー人材センター）
藤井　紀高　委員（株式会社ダスキン　ライフケア吹田ステーション）
中谷　惠子　委員（吹田市ボランティア連絡会　副会長）
美馬　美知紅　委員
（特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク吹田(友遊悠)代表）
半崎　知恵美　委員（NPO法人　市民ネットすいた　理事）
岸下　富盛　委員（吹田市高齢クラブ連合会　事務局）
宮本　修　委員（吹田市民生・児童委員協議会　副会長）
金戸　省三　委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会　副会長・常務理事）
富士野　香織　委員
（吹田市介護保険事業者連絡会　訪問介護事業者部会　部会長）
新宅　太郎　委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会　地域福祉課主幹・広域型生活支援コーディネーター）
田口　武志　委員（市民委員）
由井　昌代　委員（市民委員）
中野　和代　委員
（社会福祉法人福祉協議会　地域福祉課係長（コミュニティソーシャルワーカー））
椎名　友規子　委員
（吹田市佐竹台・高野台地域包括支援センター　センター長）
森田　明子　委員（吹田市福祉部高齢福祉室長）

４　欠席委員

藤原　俊介　委員（吹田市人権啓発協議会　会長）
山本　清美　委員
（吹田市介護保険事業者連絡会　居宅介護支援事業者部会実行委員）

５　会議案件

（1）　広域型生活支援コーディネーター活動報告

（2）　集いの場交流会の報告

（3）　地域元気アップ講座作業チームの報告

（4）　地域元気アップ講座・助け愛隊の進捗状況について

（5）　豊一地区「支え合いの地域づくり」検討部会について

（6）　グループ討議

・主旨説明

・地域で高齢者が集う場所を「集いの場」に変化させるための工夫

・各班から発表

６　議事の経過

〔傍聴者の報告〕

事務局：

傍聴者は１名です。５名以内ですので、全員の方に入室していただきます。

〔資料確認〕

〔交代委員紹介等〕

〔開会〕

〔委員長挨拶〕

すいたの年輪ネットは３年前から始まりました。特徴は地域の総合事業を作るだけの目的だけでなく、吹田市が取り組んできた地域の福祉力、市民力の強みを活かしながら地域・専門職・ボランティアの方々が協働して、自分たちの事業・活動を造り上げていくための会議です。

今年で３年目。じっくり、ゆっくりと地域の方々の思いをしっかりと吸い上げながら会議の最後にグループワークとしてみんなの自由な思い願いを議論し、事業に少しずつ反映させて頂きたいと考えています。効率的に進めるのでなく、自分の事業・活動として取り組んでいくことが大切であると思います。

そして、毎回傍聴者がいるというのは、吹田市の福祉力や行政に対する意識、市民力の高さを表していると思います。

今回は、地域包括センターや他市からも見学に来ていただき、それだけこの取組みが地域福祉の推進の要になると考えています。

皆様の熱心な議論をお願いします。

〔案件（1）広域型生活支援コーディネーター活動報告書〕
委員長職務代理者：
（資料１の説明）

〔案件（2）集いの場交流会の報告〕
委員長職務代理者：
（資料２の説明）

委員長職務代理者：
　参加された方からの感想を聞かせていただきたいと思います。

Ａ委員：
　地域の福祉委員の活動が分からないため参加しました。グループ交流のときは色々な方の意見を聞くために興味深くいろんなテーブルを回らせていただきました。

委員長職務代理者：
　自分はグループ交流に入らなかったのでグループ交流の感想を聞かせていただきたいと思います。

Ｂ委員：
　みなさん前向きに取り組んでおられると感じました。普段は細かな悩みを皆さんの中で共有できていないと思いますが、それがグループの中でできたことが良かったです。「時代の流れに合わせて、新しい考え方を頭の中に入れて次の方向性を考えていきたい」という前向きな感想もいただきました。
　新しい考え方を言い続ける事、会を続ける事の大切さを感じました。
　また、講演を聞き「ボランティアをしていることは、自分のためになるのだという事を改めて感じた」という声もたくさん聴きました。

委員長：
　アクティブシニアという言葉を使って、今まで一方的に支援を受けるところから、サロンの中で役割を持ってもらう。ケアリングコミュニティ、つまり、ケアする側もされる側もお互い元気になっていく。そのためには、高齢者といえども、役割、つまり、自分でできるという自信をもってもらう仕組みが必要では無いかという事をお話ししました。
　吹田は福祉委員やボランティア等が熱心で市民力が豊かである地域です。これからの

一つの課題は、それぞれの団体の課題を他団体で話し合うこと。これが実現するとソーシャルキャピタルの拡大につながります。
　会の終了後、参加者が熱心に話をし続けていたこと、それが会の成功であったと感じました。

委員長職務代理者：
　来年度も伝えることは伝え続け、その中で出てきた課題についても委員みんなで考えていきたいと思います。

〔案件（3）地域元気アップ講座作業チームの報告〕
Ａ委員：
（資料３の内容について説明）

委員長職務代理者：
　作業チーム内での意見で、１回の活動時間が分かるとよいという意見がありました。

Ｃ委員：
　３時間かかるとちょっとしんどい。１時間半なら頑張れるという目安があると初めての方にとってはいいのではないかと思います。

委員長職務代理者：
　意見をもとに、チラシにも活動時間を記載しました。今後も、委員の方に意見を聞いていきたいと思います。

委員長：
　他市の市民アンケートで、市の情報を得るために利用している媒体が、ホームページやＳＮＳからと回答した方が５年前から約２倍の４６．１％に急に伸びている。ホームページでアクセスできるようにするのが大切だと思います。

Ｃ委員：
　高齢者という言葉自体使い方を考えないといけないと思います。時代の流れの中で認識を変えていかないといけないと思います。

委員長：
　イメージを変えていくことが戦略的に必要です。

D委員：
　地域団体やボランティア団体の見学の日程について、講座から見学のスタートまでの期間が短いように思います。たくさんの方が一気にスタートすると、受け入れる団体側の負担にもなるのではないでしょうか。年間を通して紹介できるといったことはできないですか。

委員長職務代理者：
　是非そのようにしたいと思う。

委員長：
　お話だけで終わらず、体験も含めている点できっかけにつながればいいと思います。
　「鉄は熱いうちに打て」という事で、あまり先の予定よりも、早めに経験してもらうというきっかけ作りがありかなと思います。
　震災の際にも初めはワーッとボランティアが来ますが、時間が経つごとに（コーディネーターが）連絡すると、「もう仕事に入っていますので」等と断られることが多かったです。それと同じことであると思うので、早めにつなげる仕掛けをしていただいた方が良いと思います。作業チームにて検討してください。

案件（4）地域元気アップ講座・助け愛隊の進捗状況について

委員長職務代理者：
　（資料４の説明）

E委員：
　助け愛隊のボランティア保険の内容は。

委員長職務代理者：
　ボランティア保険はボランティア自身でかけていただくもので個人賠償などです。

E委員：
　この保険はこの活動のみですか。

委員長職務代理者：
　この活動のみならず、ほかのボランティア活動も保証の範囲となります。そのため既に保険をかけている方については不要です。

委員長：
　ボランティア保険は年度ごと（毎年４月１日～翌年３月末まで）となるため、今回初めてかける方については４月からということで良いと思います。

委員長職務代理者：
　４月からの活動のための保険をかけていただくこととなります。

Ｆ委員：
　ボランティア登録カードについて、登録した個人から個人情報を公開してよいという同意はとりますか。

委員長職務代理者：
　登録された情報は、どのような活動に利用するかという事を明記しないといけないと思っています。その他必要なものにも明記していく予定です。

Ｃ委員：
　ボランティアが必要な方から連絡があった際に、ボランティアに対してはどのような形で連絡が行くのですか。

委員長職務代理者：
　ボランティアに対しては、資料４－５を用いて、ＦＡＸ・メール・電話にて連絡する予定です。また、提供した情報については、活動終了後破棄するようにという一文も入れる予定です。この件についてはシルバー人材センターにて工夫されていると聞いています。

Ｇ委員：
　シルバー人材センターでは、ファイリングして個人情報が漏れないようにしています。

委員長職務代理者：
　個人情報には配慮し、工夫していきます。

Ｃ委員：
　ボランティアの対象者には若い方も含まれるので、ＳＮＳをうまく使っていただきたいです。アプリで位置を特定するものもたくさんあるので、そのようなものを利用すれば活動する方ももっと集まり、また、情報についての管理も容易になるのではないかと思います。

委員長：
　参考にさせていただき、作業チームで検討していきます。

〔案件（５）豊一地区「支え合いの地域づくり」検討部会について〕
Ｅ委員：
　　（資料５について説明）
委員長職務代理者：
　アンケートの内容についても地域の方が何度も検討を重ねて決めたので、地域の望んだ形でのアンケート用紙になっていると思います。

Ｅ委員：
　人口が地区内で多くマンション群も多い。自治会に入っていない方も多い。今回は高齢クラブ主体で行っていますが、高齢クラブがどこまで浸透していくかというところに懸念もあります。そのため、福祉委員もそこをバックアップしていきたいと思います。

委員長：
　これは、高齢クラブと福祉委員の協働として素晴らしい事だと思います。
　具体的なアンケート内容としては、助け合いに協力したいという方が多い事、無償か有償かというところで、無償が多いというところが印象的です。
　つまり、「ちょっとしたことで助け合いをしたいよね」という事に対する活動の動機が有償であるという事ではないという事。これはとても貴重な結果だと思います。

Ｆ委員：
　高齢クラブは元気な人が多いので、このアンケートには一般の方も含まれているように思いますが、一般の方も含まれているのですか。

委員長職務代理者：
　このアンケートは高齢クラブのみに配布した物です。

〔案件（６）グループ討議　市域で高齢者が集う場所を「集いの場」に変化させるための工夫〕
委員長職務代理者：
　２年間の議論を振り返ったときに「集いの場は大切だ」という事を議論してきていた。集いの場は場所の提供だけではなく、集いの場をとおして、人や情報等の様々な交流がなされる場であり、困りごとがあれば「私がいくよ」という助け合いも生まれる場でも

あります。
　既存の集いの場ではなく、日常生活の中で高齢者がよくいく場所をイメージしていただき、そこを「目的をもって行く場所」に変化させるためには、どうしたらよいかという事を討議していただきます。

（グループ討議）
Ｂ委員：
　１グループ。
　病院など、高齢者が生きやすいところ、家から近いところ、快適空間（冷暖房完備・腰かけるところがあるところ）最近ではイートインスペースが高齢者がよくいく場所としてあがりました。
　イートインスペースについては、ただそこに椅子があるというようなものではなく、高齢者が集まりやすい工夫が必要なのではないかという意見も出ました。
　また、スーパーや事業所のちょっとした助けが必要なのではないか。例えば、スーパーでは高齢者専用レジの「ゆっくりレーン」があれば、世間話から支え合いにつながることもあるし、また、高齢者対象であれば午前中の時間をどう活用していくかという事が大切だという話がでました。
　また、アクティブシニアの活用として、おそろいのジャンパーを着たアクティブシニアをイートインスペースに配置し、そこに来た高齢者と話をする。などもどうかという話がでました。

Ｈ委員：
　２グループ。
　買物する場所、病院・診療所、ゴミステーション、犬の散歩で自然と集まる、公園、図書館等。自然と集まっている場所の条件としては、ベンチ・トイレ・自動販売機がある・人が通るにぎやかなところ・夏は涼しく冬は暖かいところが高齢者が集まるところであるという意見がでました。
　集いの場にするためには、情報を収集する人など、核になる人が必要なのではないかという話も出ましたが、そのような方がいることによって、ハードルが高くなり足が遠のくこともあるのではないかという意見もありました。
　自然と情報を得たり、自分から情報を発信するためには、昔の駅の伝言板のようなもの、つまり、どんな情報が欲しいか貼り、それを見た人がその情報を貼るというような方法もあるのではないかという話になりました。
　スーパーによっては、血圧計等を置いてありそれを目的に朝から行く方もいるそうです。そのようなものがあれば高齢者も行きやすいし、図書館などの静かにしないといけない場所でも有効ではないでしょうか。また、その場所に血圧計であれば高血圧につい

ての情報を貼り、減塩商品の紹介、書籍の紹介等を合わせて行うと集いの場となっている場所のメリットもあります。
　集っている間にいつの間にか顔見知りになって、そこから次のステップに進むのではないかという意見も出ました。

委員長職務代理者：
　３グループ。
　フードコート、喫茶店、畑（貸農園）、整骨院、スポーツジムや体育館、公園、生きがいセンターが集まる場所だという意見がでました。
　生活に関する情報についてはレジ前に掲示など、ぼーっとしているときに目に入るところに置く（レジ前、駅の広告、バスの中等）という事がいいなという意見がありました。

委員長：
　今の話を聞くと、（それぞれのグループの発表が）つながるところがとても多いと思います。
　健康がニーズになるので、そこからスタートして場所を作れるかもしれない、また、喫茶店や銭湯なども集えるところとして気楽に行ける工夫はありだと思います。
　また、伝言板は情報発信のきっかけにできます。個人情報のこともあるので難しいところもありますが、本人がそういったことを期待するのであればそのようなこともクリアできます。
　バイタルサインのチェックは、健康を意識しているというのであれば、きっかけ作りとしてありだと思います。
　こちらがお願いするばかりでなく、企業も得する取り組みがこれから必要になっていきます。
　シニアの方に作戦会議をする場所を、つまり、「あなたたちはどんなことをやったら元気になりますか」とか「どんなことであれば集まりたいですか」、「高齢者が主体的に地域を作りたい。そのためにあなたは何ができますか」と。集まってきた方たち自身が好き勝手言ってできることからスタートするというのも一つの方法です。
　時間が来ましたので本日の議事はこれで終了します。

事務局：
　次回のすいたの年輪ネットは平成３１年２月２０日（水）午後２時から吹田市文化会館（メイシアター）集会室にて開催予定です。